

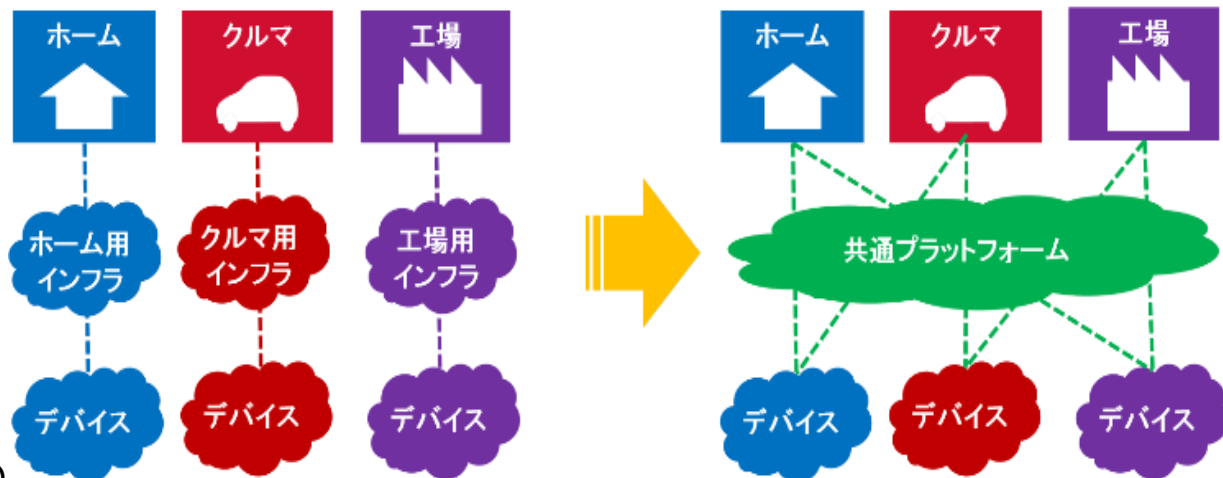
中期標準化戦略(概要と目的)		専門委員会・AG名	oneM2M	1/3
企画戦略委員	渡辺 伸吾 (KDDI)	登録委員数	23名/8社	
正副委員長 リーダー・サブ	委員長：山本 賢一 (KDDI)、副委員長：山崎 育生 (NTT)	図解		
活動の目的・意義	これまで別個に標準化が行われてきた垂直統合型のプラットフォームを、共通の水平型のプラットフォームにすることで、異なるアプリケーションを同じプラットフォームで活用できること、将来のIoT/M2M市場のフラグメンテーションを避けること、各地域における同様な標準化作業の重複を避けることを主眼とする（別紙参照）。			
活動する上での課題	Release3完成により、技術仕様策定の活動としてはほぼ安定し、これまでの仕様策定から、今後は開発者への浸透、ユーザ企業の参画を促進し、サービス導入、ビジネス開発の推進の観点にシフトしていくことが課題である。			
関連のSDGsゴール				
標準化方針	- oneM2Mの次期仕様であるRelease 5の策定状況の動向把握（oneM2M専門委員会での情報共有） 2022年1Qに完成予定のoneM2M Release 4技術仕様書のダウンロード制定(2022年2Q以降を予定) - oneM2M準拠製品・ソリューション普及を目的としたセミナー/チュートリアルを開催等、時宜にかなった対応を検討する。			
国内外 標準化団体動向	oneM2M - Release2をベースとしたITU-T勧告化がほぼ完了、Release3.4の勧告化の方法を検討中。 - Release4発行に向けた検討が進んでおり、2021年Q3にStage3 Freeze済み。 - Release5の検討が開始されており、2021年1QにStage1がFreeze予定。			

重点取り組みと成果	- oneM2MのRelease 4の策定状況の動向把握（oneM2M専門委員会での情報共有） - Release 4 Stage 3 Freeze後、IoT・スマートシティ専門委員会/ARIBと合同で、IoT及びスマートシティに関わる標準化・技術動向をテーマにしたセミナーを開催(2021年11月)。またJEITA主催のIoT/M2MセミナーでoneM2M動向について講演(2022年2月) - Release 4発行スケジュール延伸(2022年2Q)に伴い、ダウンストリーム作業は2022年度に変更。			
関連する専門委員会とその内容	3GPP：oneM2M/3GPPインターワーキング関連で連携を検討する。 - IoT/スマートシティ：スマートシティ、ITU-T勧告化の情報交換を進める。 - BSG：oneM2M普及について、協力/情報交換を進める。 - IoTエリアネットワーク：IoTエリアネットワークに関して情報提供を検討する。			
主な活動項目	概況指標	2021年度目標（当初計画時）	2021年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	各IMとして提出するため目標設定はしないが、日本勢として積極的な寄与を呼びかける	0件	
	外部会合への参加・連携状況	TP会合（2021年5月、6月、8月、11月、2022年2月、計5回予定）	TP会合は、2021年5,8,11月に開催され、全会合に参加、2022年2月会合も参加予定。 2021年11月会合は、2020年3月以降初となるF2F会合で、電話会議とのHybrid開催。	
② ドキュメント作成 国内標準仕様書レポート	JJ標準	0件	0件	
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	(Release4:2021年2Q以降) TS制定予定：?件 TR制定予定：?件	TS制定：0件 TR制定：0件 Release 4発行スケジュール延伸(2022年2Q)に伴い、ダウンストリーム作業は2022年度に変更。	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	Release4策定完了後、スマートシティなどをテーマとした他専門委員会と合同のセミナー開催を検討。	2件。Release 4 Stage 3 Freeze後、IoT・スマートシティ専門委員会/ARIBと合同で、「IoT及びスマートシティに関わる標準化・技術動向～ITU-T SG20 とoneM2M～」を開催(2021年11月)。またJEITA主催の「IoT/M2M最新動向セミナー2022」でoneM2Mの動向を講演(2022年2月にNECにて講演予定)	
	記事投稿、講演会	TTCLレポート執筆、講演会への講師としての参加	1件。UCL(University College London)でのoneM2M活動調査の一環で、KDDIがインタビューを受けた。	

新テーマ及び重点取り組み	- oneM2M仕様書の適時ダウストリームの実施（Release4発行後に速やかに対応予定（2022年3Q）） - oneM2Mの次期仕様であるRelease 5の策定状況の動向把握（oneM2M専門委員会での情報共有） - oneM2M準拠製品・ソリューション、各国導入に向けた取り組み（インドでの国内標準採用等）、及びoneM2M採用、普及を目的としたセミナー/チュートリアルを開催（他の専門委員会との協力を推進）			
関連する専門委員会または外部組織とその内容	- IoT/スマートシティ：スマートシティ、ITU-T勧告化の情報交換を進める。 - BSG：oneM2M普及について、協力/情報交換を進める。 - IoTエリアネットワーク：IoTエリアネットワークに関して情報提供を検討する。 - 移動通信網マネジメント：oneM2M/3GPPインターワーキング関連で連携を検討する。			
主な活動項目	概況指標	2022年度目標（当初計画時）	2022年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	各IMとして提出するため目標設定はしないが、日本勢として積極的な寄与を呼びかける	-	
	外部会合への参加・連携状況	TP会合（2022年5月、7月、9月、11月、2023年2月、計5回予定）。5月会合はF2F開催となる予定。		
② ドキュメント作成 国内標準仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウストリーム	数	(Release4:2021年2Q以降) TS制定予定: ?件 TR制定予定: ?件	TS制定: TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	oneM2Mでの技術仕様策定状況に応じて、スマートシティなどをテーマとした他専門委員会と合同のセミナー開催を検討。		
	記事投稿、講演会	TTCLレポート執筆、講演会への講師としての参加		

別紙

oneM2Mの目指す世界



oneM2Mを中心とした他の技術との連携・協調の状況

標準化作業のオーバーラップを避けるため、IoT関連団体とのコラボレーションが重要

提携団体（リエゾン、ワークショップ等）

技術採用、インタワーキングをする団体

パートナー

